

# 記憶

—伊勢湾台風体験記—

鹿島町

天野奈美江さん(80歳)

伊勢湾台風ときは、私はまだ20歳。ちょうど、主人と結婚して引っ越してきたばかりの頃でした。当時は、鹿島町西郷に住んでいて、そこは他より低い土地でした。結婚して蒲郡に来る前は、幸田町に住んでいたのですが、台風の怖さを知りませんでした。



台風が近づいた時は、主人と2人で家にいました。風の音が大きく、家が壊れてしまうかと思いましたが、程なくして床上1メートルまで水が入り、そのせいで縁側や畳も浮いて外れて、瓦も剥がれてしまいました。主人と雨戸を押さえていましたが、ついに雨水が入ってきたので「これはもうダメだ、家は諦めるしかない」と思い、親戚の家に急いで避難しました。その後、親戚の家も危なくなったので、みんなで鹿島神社に避難したのを覚えています。避難の時は水の中を歩きましたが、本当に怖かったです。

台風が去って水が引いた後、家に戻ると中はすっかり様変わりしていました。物はひっくり返り、縁側は抜け、瓦は飛び、壁もボロボロに剥がれてしまっていました。それでも命が助かったからよかった、と悲しいながらもホッとしたのを今でも覚えています。

家の復旧には、1カ月ほどかかり、それまでは2階で生活しました。1階部分が使えず、何をすることも不便でした。当時はまだ今のようには水道ではなかったため、ポンプでくんだ水で台風の汚れを洗い落としていました。

この体験以降台風が来ると、大切なものは何でも2階に上げて、雨戸もしっかり締めています。

当時は、今と違ってテレビもなにもなく全く情報がありませんでした。また、隣同士で呼び合って逃げる風習もなく、自分たちで状況を見て判断し避難するしかなかったのです。あの時も「水が来たで逃げにゃかん!」と思って急いで避難しました。今はテレビや携帯で情報が入り、近所でも避難するように呼びかけてくれるので、とてもありがたいことだと思います。私たちのような体験を、もう繰り返してほしくありません。

今一度確認

災害情報を受け取ろう!

●安心ひろめーる

火災・防災・気象情報のほかにも、不審者・犯罪情報、無線放送情報など各種情報をメールで配信しています。



●防災行政ラジオ(6千300円)

災害情報などをラジオでも発信しています。そのほか、電波を受信しやすくなるアンテナやACアダプタも販売しています。

●ヤフー防災速報

アプリ・メールで災害情報を入手できます。

●愛知県みずから守る防災情報

大雨や洪水に関するリアルタイムの情報をメール配信しています。

